

# 腰部脊柱管狭窄症に対する一般的鍼治療と 神経根鍼通電療法の併用効果

## — 1 症例報告 —

久保 湧奨, 今枝 美和, 北小路 博司, 糸井 恵, 井上 基浩

臨床鍼灸学講座

【目的】腰部脊柱管狭窄症患者に対して、一般的鍼治療と、障害神経根鍼通電療法を併用し、良好な経過が得られたので報告する。

【症例】81歳、男性。主訴：右下肢痛・異常感覚、間欠跛行。現病歴：X年9月、急激な腰下肢痛を自覚し、整形外科を受診。腰部脊柱管狭窄症（L4/5）と診断され、安静・加療目的に入院。ブロック注射の効果なく、鍼治療を開始。現症：右L5領域の知覚鈍麻8/10。MMT：右TA、右EHLともに4。連続歩行可能距離：5m。治療：計28回。一般的鍼治療を基本とし、9、13、17、22診目はこれらに変えて、神経根鍼通電療法を施行。評価：症状の程度をVisual Analogue Scale（VAS）にて記録し、Roland-Morris Disability Questionnaire（RDQ）とPain Disability Assessment Scale（PDAS）によりQOL評価を行った。

【経過】9診目の治療直後に症状の軽減が見られ、22診目までに漸減した。神経根鍼通電を施行した9、13、17、22診目においては明らかな直後効果を認めた。RDQとPDASは、9診目以降、漸次改善した。

【考察】腰部脊柱管狭窄症に対して神経根鍼通電は有用性が高く、一般的鍼治療との併用により高い効果を示す可能性が示唆された。

## 嗅覚減退に対する鍼治療の1症例

鶴 浩幸

保健・老年鍼灸学講座

風邪をひいた後に嗅覚の減退が持続した症例の鍼治療について報告する。60歳・女性、1ヶ月前に風邪をひき、嗅覚が消失した。耳鼻科を受診したが診断名は告げられず、薬物治療が行われたがあまり効果はなかった。風邪が治っても嗅覚減退が回復せず、オーデコロンの臭いが少し分かる程度であり、他の臭いは分からない。投薬：ビタミンB<sub>12</sub>製剤・アレルギー性鼻炎治療薬。所見：僧帽筋・肩甲挙筋・腰部脊柱起立筋に過緊張と圧痛あり。（東洋医学的所見）舌診：胖大・淡紅舌・薄白苔、問診：強い精神的ストレスがあり、風邪をよくひく、手足が冷える、腰痛と不眠がある。切診：三陰交・孔最・合谷・風池に圧痛著明、上星・列缺・肺兪に喜按、脈診：沈・緩、臟腑弁証：肺気虚弱。鍼治療は直径0.16mmの鍼を用い、以下の経穴に約4mm刺入後に10分間の置鍼術を行った。約2ヶ月の期間に計6回の治療を行った。治療は①通竅：上星・迎香・合谷・風池・肺兪・列欠、②清頭目：腦戸、③腰部の筋緊張緩和・筋血流改善：腎兪・大腸兪などに行った。症状はVAS（visual analogue scale）にて評価し、日常生活において、0mm：臭いを充分に感じる、100mm：臭いを全く感じない、とした。VASは90mmから40mmへと改善し、「様々な臭いを感じるようになった。」とのコメントが患者から得られた。VASの改善や患者のコメントなどから、本症例における嗅覚減退に対して鍼治療は有効であったことが示唆された。